

式 辞

木々の緑が、春の光に映える今日のよき日に、安来市副市長 大久佐 明夫 様をはじめ、ご来賓の皆様並びに、保護者の皆様にご臨席を賜り、令和五年度 島根県立安来高等学校第百 123 回入学式を挙行できますことは誠に大きな喜びであります。ご臨席の皆様には厚くお礼を申し上げます。

そして、先ほど入学を許可しました 134 名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。祝福を贈りますとともに教職員一同、心より歓迎をいたします。

入学にあたりまして、改めてひとつ、皆さんに問いかけてみます。皆さんは、何のために高校で学ぶのでしょうか？ 何のために高校に進学したのでしょうか？ 自分は、どうしても、この安来高校に進学したかったから。でしょうか？ 周りの友達がみんな高校に行くから。でしょうか？ それとも、大好きな部活動に全力で取り組んでみたかったから。でしょうか？ 理由は、人によって様々でしょう。

このことについては、教育について定めた法律の学校教育法の中にも記されています。おそらく、皆さんの間では、あまり知られていないのではないかと思います、この機会に、ぜひ紹介してみたいと思います。

学校教育法の、第 51 条には、高校教育の目標として、次の三つのことを達成するよう書かれています。

一つ目は、「国家及び社会の形成者として、必要な資質を養うこと」

二つ目は、「社会において果たすべき使命を自覚して将来の進路を決定すること」

そして、三つ目として、「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」

いかがですか？ どこか身が引き締まるような気持ちになりませんか？

私は、この中でも、特に三つ目の、「健全な批判力」という言葉に、何故か、いつも心が ひきつけられます。この言葉の先に、どこか、格好のいい大人の姿を思い描くからです。

「健全な批判力」とは何でしょうか？ 単なる文句や愚痴でもない、相手をただ、いたずらに攻撃する事でもない。それは、何気ない普通の暮らしや 生き方、集団や社会の仕組みをより良くするための「提言」や「問いかけ」なのです。

これを実践するためには、自分が、見たり、聞いたりした情報を、そして、自分が学んだ知識や技能を互いに照らし合わせながら、データや根拠に基づいて分かりやすく相手に伝えることが必要とされます。このことは、社会の中で、大人、成人として生きていく上で、とても大切になってきます。

皆さんは、法律上の成人となる日をこの安来高校で迎えます。大人とは、簡潔にいうと自分で考えて、自分で判断して自分で実行に移すということ。そして、自分の行動には自分で責任を持つということです。

この安来高校は、皆さんを、大人へと成長させてくれる学びがいっぱいあります。ぜひ安来高校で「健全な批判力」を、そして「大人」に必要とされる力、振る舞い、態度を磨いてください。我々教職員一同は、皆さんの学びに全力で寄り添うことをここに約束します。

最後となりましたが、保護者、ご家族の皆様におかれましては、今日のこの日まで、一步ずつ成長していくお子様の姿を、たのもしく感じると共に、自分たちの目の届く距離から少しずつ離れていくことに、どこか寂しさも感じながら見守ってこられたことと存じます。成人となる日が 近づくとは言え、まだまだ発達の途上でございます。ご心配な点多々あろうと存じますが、どうか本校を信頼いただき、ご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。新入生の皆さんへの励ましと、私達の約束の言葉をもって式辞とさせていただきます。

令和 5 年 4 月 1 1 日

島根県立安来高等学校
校長 中西 正実